鹿児島市立桜丘中学校
令和５年３月２４日

第12号

「誰かのために何かをする」

校長　上久保大介

陽光も穏やかな３月１４日(火)、**第43回卒業式**がありました。練習期間は短かったですが、**凛**としたその姿は**頼もしくもあり、美しくもあり**ました。鹿児島市教育委員会からいらっしゃったご来賓も「**素晴らしい卒業式だった。**」とおっしゃっていました。コロナ禍で縮小はしても、この生徒たちであれば上質な式はできるのです。思えば、今年の卒業生の中学校での**３年間は新型コロナウイルスと共**にありました。小学校６年生の３月２日に始まった全国一斉の臨時休校を皮切りに、あらゆる**教育活動が一変**しました。小学校の卒業式や中学校の入学式は縮小され、その後の**ほとんどの活動が中止や延期、縮小**を余儀なくされました。給食では楽しい会話も奪われました。しかし、この生徒たちの**３年間は決してつまらないものではなかった**と思います。そう思えるのは、彼らには**いつも笑顔**があり、縮小はされても行事には**みんなで前向きに取り組んでいた**からです。彼らの活動には、**はつらつとした躍動感**がありました。私は、明るい未来を信じて行動する人の姿はこうあるべきなのだと、教えられた気がします。

先日、ＷＢＣ（ワールド ベースボール クラシック）の決勝戦があり、日本とアメリカが対戦しました。日本はトッププレイヤーを集めたとは言え、全員がメジャーリーガーであるアメリカは誰が見ても格上でした。しかし、日本は優勝しました。ではなぜ勝てたのでしょう。これは私の勝手な見方ですが、日本とアメリカの決定的な違いは、**信頼関係とチーム力の差**だったように感じました。アメリカの選手が個人のパフォーマンスを発揮しようとしていただけなのに対し、日本の選手は**個人のパフォーマンスを仲間のために発揮**しようとしていたように感じました。３対２のそれぞれの２点がソロホームラン２本による得点。しかし、日本の残りの１点は**チームでつないだ得点**でした。個人の力は信頼関係の中でさらに高まることを証明していたように感じました。

今年の卒業生も同じでした。厳しい状況の中で、**楽しい学校生活ができるよう工夫**し、それぞれが**助け合って**過ごしてきた結果が卒業式に表れていました。卒業生も在校生もいつかは社会に出ます。そのとき大切なのは、**“誰かのために何かをする”**ということです。

今年も保護者や地域の皆様にはお世話になりました。不十分な点もあったと思いますが，ご理解とご協力を賜りまして，誠に**ありがとうございました。**これからも本校の教育活動にご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。